

(別表2)

事業所名 グループホームみくに 栄の園

## 目標達成計画

作成日: 平成 27年 5月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	日頃から利用者様と職員間のコミュニケーションが主体となり、利用者様同士の会話が少なく横の関係が希薄になっている。	職員と利用者様との関係だけでなく、利用者様同士の関係を築くための橋渡しができるように目くばり、気配り、声掛けなどの職員の意識と技量を向上させる。	食事の時の話題の提供、レクレーションなどの時の発言の誘導などを職員が常に意識して活性化できるよう、ミーティングや日常のコミュニケーションでの動機づけを繰り返していく。成功例をできるだけ目で見えるようにうまくできている職員のやり方を参考にしていく。	6ヶ月
2	27	通り一遍の記録しかできておらず、1年前、2年前の記録を見直した時当時の利用者の状態や問題点、問題解決にどう取り組んだかが分かりにくい。	利用者様の状態を把握しやすい記録の在り方、1年後に記録を見直して当時の利用者様の生活状態(精神状態、身体状態、生活態度など)が把握できるような記録を残せるようにする。	記録の形態(用紙、内容など)を整理し、書き込みやすく把握しやすいようにする。具体的な記録方法を例を多用して繰り返し提示し、職員の意識付けを行う。	6ヶ月
3	48	全く役割を持ってないでいる利用者様が少数だが存在し、孤立してしまっている人を楽しみの中に巻き込み切れていない。	職員全員が個々の利用者様の役割や楽しみを共通に把握し、張り合いのある日々の生活を送ることができるように支援する。	個々の利用者様のできること、好きなことをテーマに職員間の情報交換を深め、良い点をお互いに学べるようにする。業務に落とし込んで具体的な時間の摂り方や道具等について余裕を持った計画を立てる。	12ヶ月
4	40	業者任せの食事メニューで、冷めた料理を提供することが当たり前になっている。同じものでもどうすればよりおいしく食べることができるかという発想がない。	食事のメニューの最適化、食事形態の最適化などとともに、温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で食事を楽しめるようにする。食事時の会話を職員が橋渡しし、和気あいあいと食事が楽しめる雰囲気を作る。	温冷カートの導入とそれを活かした食事提供の手順に整備をする。食事メニューや利用者様の食べた様子を記録し、より喜ばれる食事メニューを考える。	6ヶ月
5	38	食事時間、入浴の時間、排泄の時間などが個々の利用者のリズムに合わせきれていない。利用者様優先の思想が充分職員に根付いていない。	日課や食事時間に引きずられて日課中心の業務に陥りやすいことを常に意識し、日々の利用者様の気分や体調の変化を尊重して無理のない生活を支援できるようにする	ミーティング時や日々の業務中の声かけなどを通し、利用者様優先、日課にとらわれないことの意識の定着を図る。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。